

- ・若者の性の現状と性の教育
喜代先生と一緒に15年
- ・性を語る楽習塾の
先生をめざして
- ・私のオフタイム
～バロンとスポーツ少年団～

このたびの東日本大震災・津波で被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。みんなで力を合わせて一歩一歩前に進んでいきましょう。

村口きよ女性クリニック 村口喜代

若者の性の現状と性の教育 喜代先生と一緒に15年

数見隆生 先生（東北福祉大学 総合福祉学部社会教育科教授）



私はこの3月まで30数年間、宮城教育大学で学校保健を専門にしてきましたが、15年ほど前より「人間と性」という科目を立ち上げ、喜代先生に半分近く手伝っていただきながら、約3,000人ほどの学生に毎年15回（半年）の性の講義を行ってきました。

村口先生は、医院を訪れる患者さんに対する医療を本職としながらも、そのアフターケアとしての保健指導やカウンセリングも熱心にされていますし、そうした事実をもとにした研究データをまとめられ学会発表もされています。治療者・

2011.3.5 数見先生退官記念パーティにて

医院経営者として奮闘するのみならず予防医学者としての姿勢もお持ちで、その上、さらに啓発者・教育者としての性的自立の能力を若者に育む努力もされてきました。まさに、スーパーウーマンとっていい活動・生き方をされている方だと感じています。

さて、若者の性行動はここ30年ぐらいの動向でみると明らかに変化してきたといえます。様々な調査がありますが、今日の高校3年生段階での性交経験率はほぼ30%を超えています（2009年に行った宮城県内5校の調査では男子32.3%、女子33.7%でした）。教員養成大学の1・2年生を対象に、ほぼ5年毎に行ってきた調査では、1980年代から2000年ごろまでの約20年間で倍近くに変わりました（男子が約6割、女子が5割近くに変わりました）。ただ、近年の状況で見ると、高校生の実態は学校格差が大きくなり、多様化が進んでいて、性の意識や行動にも大きな格差がみられます。また大学生の状況でも、この10年程度は平均的には横ばい状態ですが、性行動の活発化と逃避化の二極化傾向が進行しているのではないかと指摘もなされています。

こうした状況の中、村口先生には、性成熟の話や避妊・性感染症、そして日常の臨床からみた性意識や行動上の課題、ジェンダーとプロダクティブヘルス / ライフの課題等について熱く語っていただきました。15回を終えた後の男子学生は、「この授業を受ける前に“性とは何か？”と聞かれたら、性交のイメージしかなかったが、今では様々なことをイメージできるようになった。そして、この講義を受けて最も成長したと思うのは、性とは人間関係や文化であり、人生そのものだという見方ができるようになったことである。これであやしいメディアに振り回されない程度の力ができたと思うし、教師になっていく大事な基礎が身についたように思う。」と感想を書いています。沢山の学生・卒業生が、半年間で大きく変化したように思います。喜代先生、長い間本当にありがとうございました。

（数見先生の最新著書「10代の性をめぐる現状と性の学力形成」は、当院でも購入できます。ご希望の方は受付までお声がけください）

「性」を語れる楽習塾の先生をめざして



患者情報管理担当 柴田泰子

私がクリニックに勤務してから今年で11年目になりますが、2009年の7月より、勤務時間を半分に減らしていただき、並行して小さな楽習塾（「楽習塾」の由来は楽しく習って学ぶ楽しさを見つける場所ということです）で働き始めました。唐突な転職だったかもしれませんが、自分の中ではある意味自然な流れだったと思います。大学は教育学部を選び、入学当初は教員を目指しましたが、いろいろな経過でたまたま就職したのは医療の分野でした。このクリニックで働きながら、2006年から2年間は社会人大学院生として学ぶ機会を得るなどの中で、いろいろ思いはさまよいつつも、「やっぱり教育の分野にチャレンジしてみたい」という自分の気持ちに気がつきました。

転職先に学習塾を選んだことに特別な理由があったわけではなく、どういう形で教育に関わっていかうかとじっくり考えていた時に、塾をやっている方とご縁をいただき、その方の考え方に深く共感したので流れに乗ってみた、というシンプルな経過です。とはいえ、10年間医療の分野で働き、受験勉強で詰め込んだ知識もどこかへ消え去っている状態の私にとって、最初の1年は楽しいながらも大変でした。もちろん今でもまだまだですが、最近では、クリニックで働いてきたからこそ提供できる知識や情報も多いということに気がつき、特に中学生の子どもたちは、性の問題になると私に質問をしてくるようになりました。「学校の先生とか親には言えな一い」とか、「質問したらスルーされたよ」などと言いながら、これまで大人に聞きたくても聞けなかったことなどを話題にする時、ちょっと恥ずかしそうにしながらも、キラキラとした表情をするので、私はとても嬉しくなります。「普通に性の問題を語る」大人に出会ったワクワク感は、まさに自分自身も大学時代に村口先生を通して体験したものだったからです。クリニックで働きいろいろなことを学ぶ中で、「知識は身を守る」ということを実感してきました。だからこそ、これからの子どもたちには、国語や数学、英語などを勉強していくのと同じように、性の問題も自然に話せて学べる環境を作っていきたいと考えています。私は専門家ではないので、特別な「性教育の授業」というよりは、日常の中で性の問題に触れたり、ジェンダーバイアスによって偏った考え方などをさらっと指摘したり・・・、そんな風に自然に話せる環境づくりを心がけています。また、不登校や発達障害の子ども

たちも通っており、気がつくとはそういう子どもたちの担当になっていました。学ぶ楽しさに気がつく、子どもたちは変わり始めます。これまで苦痛だった勉強に面白さを感じ、努力が報われた時の喜びは次への一歩につながります。その楽しさに気がつく経過はそれぞれに違うので、経験の浅い私はベテランの先生にアドバイスをもらったり、生徒との関わりの中で試行錯誤したりしながら探しています。約2年前、教育の分野で頑張りたいと思ったとき、正直クリニックは辞めるしかないのかと思っていましたが、村口先生は私の思いを理解して応援してくださり、新しい働き方を提案してくれました。塾で子どもたちとかかわることは、クリニックでのデータを眺める時のヒントに繋がることもあり、今は2つの仕事をそれぞれに活かしながら楽しんでいる毎日です。



私のオフタイム ～バロンとスポーツ少年団～

医事責任者 本山晶子

私のオフタイムの楽しみ、一つは、我が家で飼っているミニチュアダックス（名前：バロン）と戯れる事でした。バロンとの出会いは、子どもの所属している野球スポーツ少年団の応援で行った河川敷でした。キャリーバッグに入れられたまま捨てられていたのです。まさに運命の出会いであったと思います。無心に慕ってくる小さな生き物に、今家族みんなが癒されています。もう一つは、土日にスポーツ少年団の応援をすることで、1日屋外で日焼けしながら他の子どもや親御さんたちと楽しい時間を過ごしていました。色々な職種の親御さんたちと、子どものスポーツを通して様々な世界の話の聞けることはとても勉強になることであり、刺激になる事でもありました。

3月11日の震災で、スポーツ少年団の活動は休止になってしまいましたが、すこずつ活動を再開しようという機運が出てきました。子どもたちの元気な声が聞けることは、これからの生活にも励みになります。子どもたちが笑顔で居られることが、社会の元気にもつながると思うのです。仕事ができること、そしてオフタイムがあること、当たり前だと思っていた日常を過ごせる事の幸せを感じる今日この頃です。



臨時休診

GWのお休みは、カレンダー通りとなっております。

編集後記

桜の季節もそろそろ終わり、爽やかな初夏の到来です。震災でのいろいろな悲しみが、季節の移り変わりとともに少しずつでも癒されますように… ☺



発行元：村口きよ女性クリニック
http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp
e-mail:con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp